に

なる。

むし

ろ税

務署長より

支

局

 \mathcal{O} 課

長を意識する。

か

と

1

0

て

他

0

背

番 号

 \mathcal{O}

職

員

لح

切

磋

琢

瘞

することはない。

つま

り納税者のためにどのようなサー

ビスができるの

かというようなことに

局

(例えば

法

人

税課長)

0 両

方

か

5

管理される。

つま

ŋ

縦

割

ŋ

0

呪

1

を入社

時

カン

5 味

わ

うこと

な

\ \ \

カコ

もその背番号は

原

則

退

職

するまで変わ

5

な

V)

税務

署

に配

属されると署長と国

税

支

これ

らは

採

用された支局

0

課

0 名

称

だ。

採

用

時

に希

望 立は

できるが、

希望どお

ŋ

に

は

1

カン

第十四章 他人事の二元管 理

二元管理?」

·その前に背番号の説明します」

背番号?」

1 法 人税

ノンキャリアとし て税務署の職員に採用されると次のいずれかの背番号がつく。

3 2 4 所得税 税 相 :続税 金 徴 収

- 103 -

0) ぎを削ることは な () サー Ė スが悪くても納税者や税理士からクレ] ムがかかることは

ほ

上 司 が Š た ŋ É 1 て管理されるなんて大変だなあ」 とんどな

11

か らだ。

でもその 上司 0) 顔 が 見えません

しろ現場に来られたとき握手までしてい

ますか

「えつ?僕 は 非 正 規社員ですが、上司はもちろんのこと社長の名前や顔は知 って 1 ます。 なに

て最高幹部 ません。だから監視を強化します。 「でも役所という組織 品に火の 粉が 届 は冷たいのです。 かないようにしますが」 かといってそういうことが起こればトカゲの まず不祥事が起これば上司は責任を取らなければなり) 尻尾切 りをし

大家さんが大声 を上 一げる。

「そんなことば か りし たら 国 が 滅 びるぞ」

「そのとおりです。

独

裁

玉

家や一党支配

国

『家を見

れば

分かるで

公務 L てい る

成 程。 徹 底 的 に 員や国民を監視 のう

民主 玉 家 \mathcal{O} 日 本 は ま しだけ れ ど、 隠すことにかけて は世 界 か も知 れ ない わ。 それ に隠す努

力をし

た者を昇進させる

わ

れたぞ」 公表すべき文書がないとか、 見つかっても今さら言えないとか言ってたけれど事実上更迭さ

「そ れ は 玉 防 省 0) 大 臣 Þ 事 務次官や将軍たちでし ょ。 私が 言 0 7 1 る 0 は 首 相 \mathcal{O} 友達 に学校用

地

を

払

1

下

げ

た

理

財支

局

長

のこと」

管理文 書 百 動 消 去 シ ス テ ム を作った元大阪 国税支局長のことですね。 そう言えば 国 税 庁 長官

に出世 首 相 \mathcal{O} L 気持、 ま Ū たね ちを忖度して学校法人に土地をバ ーゲンセールしたので褒美として大出世した 0

玉 民 は .黙っていないぞ。『資料は自動消去されて残っていませんが誠心誠意をもって正

申告をしました』と税務署の調査に応じないそうじゃ」

か。

V

な

あ

現場で働く自衛隊 国 防省の『今さら言えない事件』や『文書自動消去誠心誠意対応払下げ事件』もそうですが、 .員や税務署員はやる気をなくしています」

山 本さん が テ レ ピ \mathcal{O} 画 面 をは み出すぐらい に 膨

「そりや当然 ľ Þ ! 現 場 0 税務署 員 は 我 慢 L て仕事をこなそうとするが、 民 間 企 業 \mathcal{O} 社 |長が

ったら社員は やりきれんぞ」

のような人だ

緊急

=

ユ

]

ス

が

入

ŋ

ま

L

た。

先ほ

ど国

税 庁

長

官が

辞

任 L ま

L

改善 大家さん 活 性 化 0) L ま お せ 0 ん。 L Þ その原因を各停組で最後は副署長で定年退職した税務署員に るとおりです。 このような人が 社長や役員ですか ら本 当の 意 取 味 材 で したこ 組 織 は

とが

あ

ります」

そし

T

調

查

す

×

きか

判

断

し、

不

正

発見

に

繋

が

0

たの

です」

成

程

守 П 市 駅 ど たどり 着 け な カコ 0 た署 員 で す ね

* * *

11 た。 ネ ツ 1 もちろ タ ッ W ク 税 ス 務 0 署 な 1 0 庁 時 舎内 代、 で。 税 務署 多 員 11 日 は は 7 ン 五 ツ \bigcirc 1 人 沂 7 ン い 納 で 税 確 定 者 申 \mathcal{O} 告 申 告 0 納 相 談 税 指 相 談業務 導を L に当た 少 って

山 本さん \mathcal{O} 取 材 に 退 職 L て税 理 壬に なっ た元副署長 が 応 じる。 日

でも三十人を下ることは

な

V

相 だ 談 で カ . ら署 納 税者 蒷 0 は 鍛 気 持 えら 5 B れ 距 ま 離 L た。 感を体 今は 得 その L た よう 0) で す。 な署員 そ れ は が 退 提 職 出 L 「され て ほ た 申 とん 告書 どい ま の裏を読 せん。 み 取 0) ŋ 納 税

山本さんが元副署長に頷きながら応答する。

今 \mathcal{O} お 話 لح 似たようなことを老 齢 な 銀 行 員 カコ 6 聞 1 たこと が あ ŋ ま す

そ

0

行

員

 \mathcal{O}

話

は

こうだ。

昔

0

行

員

は

帳

簿

を見

な

が

5

同

時

に

社

長

を

観

察

L

な

が

5

事

業

 \sim

 \mathcal{O}

思

い

入 れ B 意気込 みをじっくり を聞 1 た。 その 上 で 帳 簿 上 \mathcal{O} 数 字 لح 社 長 \mathcal{O} 心 \mathcal{O} 中 \mathcal{O} 数 字 に 矛 盾 担 が 保 な

などの 11 か チ すり エ ツ 合わ ク L せ て をし 融資 て融資 を上 申 を L 実 た。 行 そし 7 後 日 上 役 が 同 行 L 7 融 資 額 利 率 返 済 期 間

か

バ

ブ

ル

期

か

5

担

保

あり

き」という担保至上主義に傾

いた途端バ

ブル

が

弾

け

7

地

価

成

程

会社

B

個

人

 \mathcal{O}

財

務

内

容

は

同

業

で

ŧ

ま

0

た

<

兾

な

ŋ

ŧ

す。

それ

ぞ

れ

個

性

が

あ

る

0

で

す。

許

認

可

が 資 暴 0 Т 昔 落 コ 気 L Μ に \mathcal{O} な ように すると金 どコ よう ピ 進 ユ ts É] が ŧ r. 対 タ 貸 融 投 面 倒 行 危 ユ で 資 率 員 機 1 顧 で は 教 タ が 客 ほ 化 広 減 育 に と を怠 少 が 接す W L て 0 て ど な V 0 Ź $\bar{\mathcal{O}}$ て 倒 か た 体 銀 銀 0 11 産 制 行 た す た。 行 が を取 Ź は \mathcal{O} 赤 超 人 で 銀 字化 ろうとするが、 低 適 工 行 切 金 知 が 利 L 能 な 現 た。 時 融 れ 0 資 代 活 た。 に 用 B \mathcal{O} 穾 を 口 担 帳 弊 始 入 収 保 簿 害 L 8 が 至 上 を見 たことで貸 \mathcal{O} る。 う ŧ 主 原 たり 因 銀 < 義 に 行 V を 改 気 相 0 カュ 手 付 8 L な コ 出 て 0 1 か 表 た ピ 行 L 0 た。 情 何 員 が ユ を読 行 減 1 0 そこで カ タ 圳 ŋ 武 8 断 0 る 頭 多 装 で 行 取 額 融 が A

員はまったく存在しないことに愕然とした。

山 本さ $\bar{\lambda}$ 0 説 明 に 今 度 は 元 副 署 長 が 頷 Ś

業 は 企 業 \mathcal{O} ほ 場 は ぼ 合 同 政 は じ 府 と で 0 ŧ す 指 か が 示 < で نح 例 帳 L え 簿 7 ば \mathcal{O} 個 自 付 動 人 け \mathcal{O} 車 方 業 B 確 定 界 報 申 告 \mathcal{O} 告 原 書 書 価 \mathcal{O} 計 作 t 個 算 成 性 方 を が 法 縛 あ は る 各 カン n ま 企 5 |業ごとに す。 同 じ そ 業 れ 種 は ま 0 許 ひとりとし 0 た 認 < 可 異 企 な 業 7 n \mathcal{O} 同 ま 帳 じ す。 簿 納 組 税 企 織

1 要 え は 税 務 捨 署 7 させ 員 は b 税 務 n た 0 0 技 で 量 す を 磨 < 宝 0 Ш 0 納 税 相 談を捨 てたと言うことですね

者

が

V

な

1

か

5

で

す。

5

ょ

0

と話

が

逸

れ

ま

L

た

な

組

織

 \mathcal{O}

長

が

自

5

 \mathcal{O}

組

織

を

弱

体化させた?」

- 107 -

「そうです。 かとい ってコンピュ] - タを駆 たが、 使 暗算で間違 l た調 査をするの かと言えばそうでは あ ŋ É せん」

処理 て γì る 0) で 間 違 1 な 1 と笑 わ れ た.....

先

ほ

どの

元

行員

0

方

ŧ

仰

ってま

L

1

に

気

付

1

て指摘してもコンピ

ユ

タが

資料 そ が 0 気 間 違 持 ち 0 7 分 1 か た り . の ŧ で変な指 す Ą コ 示をコ ンピ ユ ンピ タ が ユ] 調 タ 查 が に行けと言うから行く。 する のですが、 調 査 してそのことが 同じですね。 初 元 8 々 Ė 0

まあ、 分か る。 それ つま が 副署1 り 無駄な 長 0 仕事では 調 査をするの ありますが です。 納税者 か ら抗 議が あ つて何 度謝 的に行

ったことか

「そん な時間 う毅然とした態 を費やすのなら、 度で調査すべきでは 脱税 したい ? 、心理、 その脱税額が微々たる者であっ ても見逃さな

「そのとおりです。 個 人の脱税は 少額であっても国 のモラルを左右します。 つまり蟻 の 一 穴

です」

「なぜ 「そう言う風 現 職 時 通 代 L に \mathcal{O} 玉 ょ 税 支 1 組 局 織 長や で は 国 あ 税 ŋ 庁 ŧ 長 せ 官 ん に上 申 L な カコ 0 たのですか」

「二元管理 が 問 題 な \mathcal{O} で す カ ?

急に

元

副

署

長

が

黙り

込

む。

山本さん

は

黙

って

返事

を待

 \sim

に は関 署長 係 に が な な れ ま いこと。 せ んで 残念なことです」 し たが 副 署長といえども ノンキャリア 、では出世した方です。 退職 する者

第十四章 他人事の二元管理

安定した仕事 「採用の段階で将 元副署長は と引き換えに自分を殺す。 山本さん 来が の質問に答えずに咳 決まっている。 L その結果組 か 払い もノンキャリアは二元管理でガチガチに をしてから独り言のように漏らす。 織 が堕落する。 ということでしょうか?」 練ら れ る。

「決して楽な職場じゃなかったなあ」

第十四章 他人事の二元管理